

「第3回 まちなかを考えるシンポジウム」開催結果報告

まちづくり部都市計画課

1 概要

- ▼日時 2024年7月30日(火) 午後1時30分～4時00分
- ▼会場 一宮スポーツ文化センター 3階 小ホール
- ▼参加者 111名（一般参加者：92名、市関係者：19名）
- ▼第1部 講演「居心地の良いまちからはじめる都市の再生」
講師 山田 大輔（やまだ だいすけ）氏
（国土交通省都市局まちづくり推進課官民連携推進室長 兼 国際競争力強化推進官）
- ▼第2部 まちなかアイデアディスカッション
進行 名畑 恵（なばた めぐみ）氏
（錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役／NPO 法人まちの縁側育くみ隊代表理事）
登壇者
大野 暁彦（おおの あきひこ）氏 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 准教授
喜多 茂樹（きた しげき）氏 株式会社エコ建築考房 代表取締役
ショコラ（しょくら）氏 LOCOCO by 尾州ロリィタ オーナー
出村 嘉史（でむら よしふみ）氏 岐阜大学社会システム経営学環 教授
富田 隆裕（とみた たかひろ）氏 一宮市銀座通商店街振興組合 理事長
西村 浩（にしむら ひろし）氏 株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役
星野 博（ほしの ひろし）氏 NPO 法人志民連いちのみや 理事長
山田 大輔（やまだ だいすけ）氏 第1部講師

2 第1部 講演内容

- ・持続的な都市経営とは、市民に利益をもたらすことや新たな価値を持続的に創出すること。
- ・制度はあくまでツール。大事なものは、どのような一宮に暮らしたいかを想像して、居心地の良い場所を創造すること。
- ・少しずつ実験しながら手探りで進める。時間がかかるが、何度もやり直せばいい。

3 第2部 主な発言

- ・良い所や悪い所を議論する中で新しい価値観を生み出すことがデザインのあり方である。
- ・デザインに対して色々な意見を出し合ってイメージを合わせていくと良い。
- ・連続性を確保するとエリアが一体となり沿道が変わっていく。
- ・賑わいや地価だけでない多面的な効果を積み上げていくことが必要である。
- ・憧れの本町通りを取り戻すため、若者がチャレンジできるまちなかにしたい。
- ・一宮で頑張っている人・活躍したい人たちが主役となり、一宮を元気にできるとよい。
- ・ビジョンを実現するためにビジネスがどうあるべきかを考える。
- ・銀座通商店街の地元を無視してきた。進め方を改めてほしい。

- ・真清田神社への道を案内する際、自然にたどり着ける街づくりが必要である。
- ・駅周辺の渋滞やバス乗車場の問題も検討する。
- ・場所に応じた適切な緑のあり方を考えることが重要である。

(第2部のまとめ)

- 子どもの未来が幸福なまちを次の世代に受け渡す。
- 誰のためのまちづくりか理解し、どう決めるか議論し、立場をリスペクトすることが必要である。
- 空間の連続性により駅から真清田神社までの流れが重要である。
- 若者がチャレンジできるまちなかにしていく。

4 当日の様子



副市長あいさつ



会場風景



第1部 講演



第2部 討論



一宮市銀座通商店街振興組合からの提案